



慶應義塾大学ビジネス・スクール

株式会社だいくや

—店舗移転戦略—

昭和57年10月11日、株式会社だいくや社長山田一夫氏は、経営企画部長の森川真明氏を伴って慶應義塾大学ビジネス・スクールを訪れた。山田氏が同校を訪れたのは、株式会社だいくやの所在する福島県下山田市の商圈とそこに展開されている小売競争の概要を授業内でプレゼンテーションするためであった。山田氏が同校を訪れるきっかけとなったのは、約2ヶ月前の8月のある日、同校の日吉助教授と下山田市で会見したことにあった。日吉氏は8月に地域商業研究会活動の一環として下山田市商工会議所を訪問した。同氏はたまたま商工会議所のメンバーとの会話のなかからだいくや本店の移転問題を知り、商工会議所の紹介で山田氏と会うことになったのである。

10

日吉助教授は下山田市の調査を終えて帰京した後、9月から開講する調査の授業で下山田市の商圈調査を行なうことを思いつき、早速山田氏に相談をもちかけた。日吉氏の話は、山田氏に慶應ビジネス・スクールへ来てもらい、学生が商圈調査の設計をするにあたって、下山田市の商圈の概要を説明し、調査の助言をしてもらいたいというものであった。山田氏は、昭和58年7月に迫った移転開店に備えて下山田市商圈については既に十分に調査も行なっていたし、たまたまこの時期には東京への出張も予定していたので、日吉助教授の依頼を心良く引き受け、今日の訪問となったのである。

15

20

午後3時から行なわれた山田氏のプレゼンテーションには、この授業を受講している14名の学生が参加し、1時間半にわたって熱心に聞いた。学生達は山田氏のプレゼンテーションが終るや否や、待っていたかのように山田氏に質問を浴びせかけた。学生達の質問はもっぱらだいくやの移転開店問題に集中し、次のような質問が行なわれた。だいくやは、なぜ現在の

25

本ケースに登場する地名、人名、団体名はすべて偽装されており、また、付属資料その他に示されているデータも一部統計数値を除いて、原型の関係をそこなわない範囲で改編されている。本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクール助教授和田充夫が同校研究生高橋宣久および坂本博司の助力を得て作成したものである。本ケースの作成にあたっては、(株)DDSおよび、(株)だいくや両社の多大な協力を得た。ここに記して感謝するものである。本ケースはクラス討議の資料として作成したものであり、特定の経営管理状況の巧拙を論ずるものではない。

30